



平成24年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成24年1月30日

上場取引所 東名

上場会社名 株式会社 木曽路
コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 福本 寛

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成24年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	32,357	0.7	305		359		105	
23年3月期第3四半期	32,573	0.6	190		43		1,468	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
24年3月期第3四半期	4.07	
23年3月期第3四半期	56.84	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
24年3月期第3四半期	38,316		28,558		74.5
23年3月期	38,087		29,018		76.2

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 28,558百万円 23年3月期 29,018百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
23年3月期		9.00		5.00	14.00
24年3月期		7.00			
24年3月期(予想)				7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	43,700	0.4	1,060	309.8	1,180	189.2	330		12.77

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	24年3月期3Q	25,913,889 株	23年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	24年3月期3Q	73,174 株	23年3月期	72,703 株
期中平均株式数 (四半期累計)	24年3月期3Q	25,841,069 株	23年3月期3Q	25,841,310 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成23年4月28日に公表いたしました業績予想は、平成24年1月30日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて修正しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項について、四半期決算短信[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

(第3四半期累計期間)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
平成24年3月期	32,357	305	359	105	4.07
平成23年3月期	32,573	190	43	1,468	56.84
増減率(%)	0.7	-	-	-	-

当第3四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で大きく落ち込んだ後、サプライチェーンの復旧に伴い、夏場にかけて持ち直しましたが、欧州財政不安による海外経済の減速、タイの大規模洪水の影響や急激な円高の進行などから先行きの不透明感が続いており、年末にかけて回復ペースが鈍化しました。

外食業界におきましては、東日本大震災後の自粛ムードが沈静化するとともに売上は回復に向かっていましたが、第2四半期に放射性物質による汚染問題を背景に「食」の安全・安心意識が高まり、下降に転じました。年末にかけては、回復の兆しも見られましたが、雇用・所得環境の改善が進まない中、外食を控える傾向は強く、経営環境は厳しい状況で推移しました。

このような厳しい環境の中で当社は、2店舗の新規出店、2店舗の改装、2店舗の業態変更、2店舗の撤退を実施し、その結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は170店舗となりました。

営業面では、季節的イベントの開催、旬の料理の提供に注力し、また、需要期によっては店舗の要員を確保し、料理・サービスの充実と販売促進活動の強化に努めました。放射性物質による汚染問題は、当社にも来店客数の減少をもたらしましたが、年末にかけて忘年会需要に回復の兆しが見られました。しかし、店舗数が前年同期に比べ10店舗減少していることもあり、売上は減収となりました。

費用面におきましては、「食」の安全性の堅持に注力した一方、節電対策を推進し、また、販売促進費の抑制や労働時間管理の改善など経費削減に取り組みました。その他に店舗数が減少していることもあり、賃借料や減価償却費が減少しました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は323億57百万円(前年同期比0.7%減少)となり、営業利益は3億5百万円(前年同期実績1億90百万円の損失)、経常利益は3億59百万円(同43百万円の損失)、四半期純損益は1億5百万円の損失(同14億68百万円の損失)となりました。

なお、前年同期においては、特別損失として、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額8億19百万円を計上したため、当第3四半期累計期間は前年同期に比べ、損失が大幅に減少しております。

(部門別の概況)

部門別売上高

	当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比 増減率(%)
木曽路	26,920	2.0
素材屋	3,188	23.9
じゃんじゃん亭	699	15.4
とりかく	816	3.5
その他	732	123.1
計	32,357	0.7

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、2店舗の新規出店、2店舗の改装により、当第3四半期会計期間末店舗数は116店舗となりました。

営業面では、母の日、父の日、敬老の日、七五三などのイベント並びに恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」「とらふく祭り」を展開、また、季節毎の旬メニューを充実し、コース料理に加えて一品推奨するなど売上の増加に努めました。既存店の客数は、夏季の節電対策や放射性物質による汚染問題の影響で前年同期に比べ減少しましたが、一方で、客単価は上がりました。当第3四半期累計期間の全店ベースの売上高は269億20百万円(前年同期比2.0%増加)となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、4店舗の撤退(うち2店舗は「鈴のれん」に業態変更)により、当第3四半期会計期間末店舗数は28店舗となりました。

営業面では、9月にグランドメニューを大幅に改訂し提供時間の短縮を図ったほか、旬メニューや焼酎のお値打ち販売など中年をターゲットとした客数の獲得を図る一方、更にインターネットによる販促活動を強化するなど、業績の回復に努めました。その結果、既存店の売上は、第3四半期に入り来店客数に回復の兆しが見え始めました。当部門は店舗数が前年同期末に比べ12店舗減少しており、当第3四半期累計期間の売上高は31億88百万円(同23.9%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、食べ放題メニューの推奨のほか、Eメール会員やキッズクラブ会員への販促活動を推進、学生予約獲得活動の強化など、来店客数の確保に努めました。しかし、ユッケ食中毒事件や放射性物質による牛肉の汚染問題の影響が長引き、来店客数の回復に至らず、当第3四半期累計期間の売上高は6億99百万円(同15.4%減少)となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、宴会メニューを充実し、おすすめメニューとして旬の逸品を提供、またインターネット販促による宴会予約の獲得に努めました。この結果、期初の震災の影響からは早期に回復の兆しが現れ、既存店の客数・客単価は、前年同期を上回りました。しかし、当部門は店舗数が前年同期末に比べ1店舗減少しており、当第3四半期累計期間の売上高は8億16百万円(同3.5%減少)となりました。

その他部門

その他部門は、和食レストラン「鈴のれん」6店舗、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。当期中に「鈴のれん」が2店舗出店(「素材屋」からの業態変更)しております。当第3四半期累計期間の売上高は7億32百万円(同123.1%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報**資産、負債及び純資産の状況**

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増 減
総資産(百万円)	38,087	38,316	229
純資産(百万円)	29,018	28,558	460
自己資本比率(%)	76.2	74.5	-
1株当たり純資産(円)	1,122.96	1,105.16	17.81

当第3四半期会計期間末の総資産は、383億16百万円で前事業年度末比2億29百万円の増加となりました。この内訳は、現金及び預金の増加のほか、震災の影響で前事業年度末に減少した売掛金、棚卸資産が、季節の変動要因に伴い増加した一方で、償却により有形・無形固定資産が減少し、店舗撤退に伴い差入保証金が減少したことなどによるものであります。負債は、前事業年度末に比べ6億90百万円増加し97億58百万円となりました。これは主として、総資産同様、震災の影響で前事業年度末に減少した買掛金や未払債務が季節の変動要因に伴い増加し、法人

税等や消費税などの未払税金や賞与引当金が減少したことによるものであります。また、新株予約権付社債が償還期限をむかえ残高78百万円を償還しました。純資産は、285億58百万円、前事業年度末比4億60百万円の減少となりました。これは主として、四半期純損失1億5百万円、剰余金の配当3億10百万円によるものです。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は74.5%、1株当たり純資産は1,105円16銭となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成23年4月28日に公表した業績予想を本日付で次の通り修正しております。

なお、詳細につきましては、平成24年1月30日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(通期の業績予想数値の修正)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	44,600	700	780	160	6.19
今回修正予想(B)	43,700	1,060	1,180	330	12.77
増減額(B-A)	900	360	400	170	

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,784	10,680
売掛金	663	1,202
商品及び製品	34	49
原材料及び貯蔵品	367	772
その他	1,164	1,132
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	12,013	13,837
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	9,228	8,889
土地	5,637	5,637
その他(純額)	2,133	1,822
有形固定資産合計	16,998	16,348
無形固定資産	361	295
投資その他の資産		
差入保証金	5,922	5,423
その他	2,817	2,438
貸倒引当金	27	27
投資その他の資産合計	8,713	7,834
固定資産合計	26,073	24,479
資産合計	38,087	38,316

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	955	1,842
1年内償還予定の新株予約権付社債	78	-
短期借入金	950	950
未払法人税等	188	127
賞与引当金	496	205
その他の引当金	92	107
その他	2,695	2,916
流動負債合計	5,455	6,148
固定負債		
退職給付引当金	1,408	1,411
資産除去債務	1,240	1,352
その他	962	846
固定負債合計	3,612	3,610
負債合計	9,068	9,758
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,244	8,832
自己株式	111	111
株主資本合計	29,065	28,653
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46	95
評価・換算差額等合計	46	95
純資産合計	29,018	28,558
負債純資産合計	38,087	38,316

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	32,573	32,357
売上原価	10,236	10,177
売上総利益	22,337	22,180
販売費及び一般管理費	22,527	21,875
営業利益又は営業損失()	190	305
営業外収益		
受取利息	20	19
受取配当金	19	18
受取保険金	70	-
協賛金収入	26	12
その他	17	24
営業外収益合計	153	75
営業外費用		
支払利息	6	6
寄付金	-	11
その他	0	3
営業外費用合計	7	20
経常利益又は経常損失()	43	359
特別利益		
過年度事業所税修正益	30	-
固定資産売却益	2	-
貸倒引当金戻入額	2	-
特別利益合計	35	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	819	-
固定資産除却損	146	28
減損損失	344	82
投資有価証券評価損	321	-
賃貸借契約解約損	61	-
特別損失合計	1,693	111
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	1,701	248
法人税、住民税及び事業税	95	92
法人税等調整額	327	261
法人税等合計	232	353
四半期純損失()	1,468	105

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。